

議 事 録【令和元年度 第1回総合教育会議】

糸魚川市総務部総務課

日	令和2年2月19日(水)	時間	8:45~10:00	場所	糸魚川市役所 201、202室
件名	議事 (1) 各種調査結果を踏まえた今後の対応について				
出席者	【出席者】 15人 市長 米田 徹 教育委員会 井川賢一（教育長） 永野雅美（教育長職務代理者） 蘆本修一（教育委員） 谷口一之（教育委員）塚田京子（教育委員） （事務局） 総務部 渡辺成剛（総務課長） 大西 学（総務課長補佐） 教育委員会 磯野 茂（教育次長） 磯野 豊（こども課長） 室橋淳次（こども課長補佐） 古平真由美（親子健康健康係長） 泉 豊（こども教育課長） 松村伸一（こども教育課長補佐） 小島治夫（生涯学習課長） 磯貝恭子（生涯学習課長補佐）				
	傍聴者定員	10人	傍聴者数	3人	

会議要旨

1 開会（8:45）

○渡辺課長（進行）

ただいまから、令和元年度第2回糸魚川市総合教育会議を開会する。
 総務課長の渡辺だが、議事に入る前まで進行させていただく。
 はじめに、米田市長がごあいさつ申し上げます。

2 市長あいさつ

本日の会議は、「各種調査結果を踏まえた今後の対応について」を議事としている。
 今回、本年度教育委員会で実施した生活習慣などの各種調査について示し、調査結果は統計的基礎数値となることから、この結果をどのように読み解き、今後の施策に反映また活用できるのか、限られた時間ではあるが、教育委員から多面的なご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げ、開会に当たってのあいさつとさせていただきます。

3 議事

(1) 各種調査結果を踏まえた今後の対応について

「各種調査結果」（資料）について事務局説明

○委員

詳細な直近のデータをこのような形で整理いただき感謝申し上げます。そこで、市内全体の統計集計結果と思われるが、学校別や中学校区別などの分析を事務局で行っているか。

○事務局

学校別に集計している。ただし、中学校区別には集計していないが集計は可能である。

○委員

早めに学校区別の実態を把握し、学校訪問等様々な場面で我々も活かせるので情報提供願いたい。

○事務局

学校別に集計したものは学校別に結果を通知し、養護教諭等全ての先生に見てもらい、学校別に対策を検討いただいている。

○教育長

2ページの電子メディアの項目のところで、不所持が45パーセントとなっているが、これは、携帯型ゲーム機の所持部分には反映されていないことでよいか。

○事務局

ゲーム機は数字に含まれていない。

○委員

前回はいつ実施したか。また、その調査結果との比較や分析は、大きな問題解決の一助になるのではないか。特に、早寝早起きおいしい朝ごはんに関係する部分で、かなり過去にデータが蓄積されているのでないか。

○事務局

4年生から6年生に対する生活リズムのアンケート調査は、今回が初めての実施である。今まで数年間は、小学生4年生から6年生に「生活リズム改善モンスター攻略ブック」を実施したので、今回は現状把握を実施した。また、これとは別に、親子健康計画、親子保健計画のため、昨年秋に保護者対象の調査を実施し、データが1月に出たので、今後前回との比較や分析を実施する。

○市長

生活リズムのアンケートを通じて、事務局としてはどのように結果を受け止めたか。

○事務局

調査結果には、メディアの影響がかなり色濃く出ている。今での段階で、電子メディアの禁止は困難であるので、いかにコントロールしていくかが重要になっていくと考える。今後、対策を検討し推進していくべきであるが、具体的にどのような対策がよいか今後となるが、メディアコントロールは、教育委員会だけが一生懸命やるものではなく、家族全体の問題とし家庭と一緒に取り組むものであると考えている。電子メディアは、家族の利用も多いため、その点も含め一緒に対策を検討していく。

○市長

2・3ページを読むと、非常に心配となる部分がある。担当者も何か考えていかなければならないという意見でもあるし、我々もこのままではいけないのではないかと思う。様々なところに影響が及んできている。特に、電子メディアの総使用時間を見ると、3時間から4時間以上が課題であり、就寝時間に影響し、そして朝食の摂取に関係する。全ての生活リズムに影響が出てくるので、いずれかの対応をしなければいけないと考えている。

○教育長

今、市長言われるとおりの結果であり、この部分は、今学力の向上を進めている中で、この結果はよい傾向ではないと捉える。学校だけでなく、家庭教育にしっかり力をいれていく必要があると考える。

○委員

親の姿勢が大事で、子どもにスマートフォンを与える責任は、親にあることを本当に理解

してもらい、与えた時の規則づくりが大事である。川島先生の講演は、非常に勉強になったと思うが、そのような講演会等も繰り返すことで、多くの親にエビデンスが出ているスマートフォンの悪影響ということを繰り返し伝える必要があると感じる。

また、早寝早起きおいしい朝ごはんの活動を始めた時は盛り上がっていたが、最近は学力向上に向かうことも次の段階で良いことではあるが、その辺の基礎部分である生活習慣という部分からコツコツと、親も世代交代していくので、繰り返し訴えることは大事と考える。

○委員

メディアの影響が心身の様々なところに影響するというところで、先ほどから委員や事務局の話のように、子どもに言うだけではなく、親にもしっかり理解してもらうことがとても大事だと思う。しかし、メディアが全て悪いことなのかといえば、今の社会、なしでは生きていけない。良し悪しを親が理解し、子どもに説明することが大切だと思う。2時間以内とか使用時間の設定ではなく、昔の録画もできない時代、テレビでも、この番組を見て終了であったが、今はテレビも録画で見る、ユーチューブなどのインターネット上ものはいつでも視聴できるので、子どもたちが好きなものをいつでも無制限に視聴できることが問題だと思う。夜遅くまで視聴してしまうので、何時以降は禁止することもよいのではないかと感じた。

○教育長

動画については委員の言うとおりで。また、そのほかにライン等の通信アプリのグループでの対話について、1人が早く抜けた時、なぜ早く抜けたということで、仲間外れやいじめが懸念されていることも、個々の家庭内だけでなく全体の対応も必要だと考えている。

○委員

様々な委員の意見にあるが、一貫教育の根本的な部分が今問われているのではないかと危機感を持ってこの数値を捉えた。一環教育が始まる前から、生活リズムの改善、早寝早起きおいしい朝ごはんという運動を、糸魚川市はどの地区よりも早く取り組んできた。スタート時は非常に盛り上がり、全国フォーラムを開催した。その点で勢いが少し足りなくなった結果がこの数値に出てきていると受け止めている。一貫教育の3本柱の「健やかな体」これは根本的に生活リズムである。どこに問題があるのか、なぜ少しずつしぼんでいったのか。一方、学校では市から出る様々なブックやたよりでの啓発を繰り返しやってきた。手を抜いてきたと私は思いたくないが、結果として保護者の意識になかなか定着しなかったということになる。どこが一番根っこであるか、どうすれば家庭や保護者、子どもの生活に入っていくのだろうかと思う。今、学力向上へかなり動いてきており、キャリア教育、産学官プラス高校生という意味で全体的なムード、関心ごとがそこにいっているが、ベースに立ち返るということを私は考える。陰山先生は、学力向上の根本は、生活リズムだということを常に提唱している。生活リズムが根本であるという部分も一緒に、啓発して強めていく取組が必要ではないかと考える。

○市長

私もそう思うが、時代が動いてきている。特に電子メディアのアンケート結果を見ると、スマートフォン、タブレットは、受け入れながらどう生活リズムを戻していくのかということである。おそらく、スマートフォン、タブレットを持つのと、早寝早起きおいしい朝ごはんというのも少しずつ、同一していない部分ではないかと。所持してよいが、ルールはどうか定まってなく、そこを入れて、再度生活リズムの中で検討しなければいけないと感じている。保護者の方々や家庭では分かっているが、これは別という見方をしている。その中で、子どもたちはどんどん進んで行ってしまう。今が24時間対応できる生活であり、その

辺を改めて再確認し、メリットは十分理解しているので、デメリットをもう一度共通認識とさせるべきではないか。その中で基本的には、早寝早起きおいしい朝ごはんであるということ、再度しっかり打ち出し、全保護者に伝える方法を考えなければいけないと思う。関心がある保護者だけが受け止めていくものではだめである。

○事務局

早寝早起きおいしい朝ごはんについて、昨年実施のアンケートで「早寝早起きおいしい朝ごはんを知っていますか」という設問があり、95パーセントを超える保護者の認知度があった。ただし、そのうちの半数は、知っているが実施していないとのことであった。最近、早寝早起きおいしい朝ごはんは、マンネリだとかしつこいとかの声も聴いていたが、今回新たにアンケートで、早寝早起きおいしい朝ごはんに取り組んでよかったことを書いてくださいとの設問を入れたところ、大変多くの方から熱心に記載いただいた。3割ぐらいの保護者の方が、よかった様々な意見を記載いただき、「体調がよくなった。」「集中力が高まって成績がよくなった。」「家族全員で取り組めて家族の団結に繋がった。」等多くいただいているので、良い意見もあるという結果を皆さんに示しながら、改めて熱心にそちらを取り組み、メディアの方へも繋がっていかねばと思っている。

○市長

内容を知らないでそれだけ言われると、「しつこい、分かっている。」ということになるが、真意を知っている方は、3分の1であり、残りはそう思っていない。そこは、川島先生の考え方をもう一度分かりやすく出してやることも大事なのではないか。本来は、先生から直に話を聞くのが良いが、どのように腹の中にストンと落としてもらえるかという工夫をしなければいけない。様々なやり方があるが、早寝早起きおいしい朝ごはん、陰山メソッドという1つのものに一貫して取り組んでいるので、できればそのまま継続したほうがよいと考えている。今回提示されたデータをどのように判断し、活用していくかというのは、時代や、今いる保護者の方々は理解したとしても、次の世代の方々にも伝えていかなければならないので、そこも頭に置いて実施しなければいけない。一生懸命やったから、そのまま引き継いでいけるかという、そうでもないことがデータに出てきている。

○委員

脳科学の世界でも明らかに、スマートフォンは良くないということが実証されているので、その点を訴えながら、親はどのようにすればよいのか。委員の皆さんに聞きたいのだが、小学校からスマートフォンを与える必要があるのか。小学生は、脳が作られている時に、阻害するということであるので、そう考えると与えたくないと思うし、持っているがために起きる友人関係のトラブルも多いと思うので、小学校の間は、使い方はパソコンも含め学校で習ってもらえば良いのではないか。

○委員

当市の担当者は、かなり先進的な研修を積んでいる。このような具体的な中に9歳まではメディアの関係、特にゲーム機スマートフォンは持たせないという宣言をしていると明確に記載している。そのことがどこまで浸透しているか。内容というのは、色々な研究者、それから当市の実態、これからの将来、このような危険が予想されるだろうということを含めて、非常にバランスよくまとめられている。このような宝物をどのようにして家庭の中、幼稚園保育園、小学校低学年までに降ろしていくのか。作った内容を生かしてこそ、この値打ちが出る。委員が言われるように、小学校は持たせないほうが良いとの話だが、9歳まで持たせない宣言して

いるのであるから、その路線を守ってみんなで働きかけていかないと、まちまちになってしまう。この記載されたものに対し、実態と照らし合わせ、どこに重点を掛けてこの資料をどの場面で生かしていくのか、担当者が使い方についての検討を更に強める必要があると思う。

○委員

子どもを守るために、みんなが一生懸命考えているので、家庭の事情により、どうしても持たせなければいけない状況もある。それはやむを得ないとして、生活に必要な物まで与えることは、親と子の与える時の確認というところが一番だと思う。先ほど、委員の発言のとおり、これから付き合っていかなければいけない道具だとも思うが、その点が難しい。

○教育長

今の保護者は、時代が変わりインターネットで育ってきた世代だと思う。私も先週東京へ行ったが、車内では大半の大人が、ずっとスマホ操作している。その状況のとおり今の保護者は、家庭では子どもより操作しているかもしれない。そのことを把握し、対応しないと親が子どもの指導もできない中で、この状況が更に悪くなるので、しっかり把握し対応していく必要があると感じている。

○委員

大人がそういう状況で、子どもにスマホ見せておけば大人しくなるということで、小学校入学以前からずっと視聴している子どもはいると思う。その点にも対応していかないと、入学してからやめるのは無理である。親も含め小さいころから、これから親になる若者も含め、スマホ等の利用により成長が妨げる、小さいころからゲームばかりしていることはよくないということを家庭で指導しないと、学校だけの指導では無理がある時代にきている。親になる前から指導していかないと、子どもに簡単にスマホ等を与える時代になっている。

○市長

本当に子どもは、委員の話にあるように、親のやることや持つものには、非常に関心が高い。そして、自分たちも自由に使えるようになって、物心付いた時から見て、依存度も高くなり、それが社会に出るまで続いている時代である。上手に利用していればよいが、違う方に使えば、社会問題になっていくのではないかと考えたときに、それをどのように受け入れて、しっかり理解してもらえるかということをやっけていかなければならない。市ではスマホ禁止という形でやっているが、それも見直ししながらやっけていかなければならない。ダメと言っても、そのような時代ではなくなってきた。早急に教育の現場に出していけるものにしていかなければならない。

○委員

9歳までスマホ等を持たせないという件は、ほとんどの市民が知らないことではないか。それはもったいないことである。また、委員の発言のとおり、小さいころから持たせる必要があるのかということ考えた時に、今、不審者等の怖い世の中になっているのが事実であり、小さいころから塾や社会体育に通っているのも、親としては、連絡を取れるツールが欲しい気持ちちはわかる。そこでスマホ等を持たせる悪影響を、持たせる時にしっかりと、子どもとの約束、それを指導するのが大事だと思う。結果は本当に低年齢化しているのも、小中学校の保護者だけでなく、保育園・幼稚園の保護者にも報告し、このような影響でこのようになっていくのだということを理解いただくのが必要である。

○教育長

調査内容は、広報等により周知していくのは当然であるが、取り組んでいる家庭も5割か

ら6割はある。そのような家庭が取り組んだことによるメリットも併せて周知したほうがよいと思う。

○事務局

提示の4から6年生のアンケートは、各学校には結果を返している。公開している結果は、保護者に向けたアンケートであり、これは0歳から18歳まで全体的に行ったアンケートであるため、そちらを広報等で周知したいと考えている。

○委員

本当に良いことを多く載せていけば、自分もやろうと思うので、明るいことを多く発信して欲しい。

○市長

悪い点も理解するだろうが、良い点も皆さんは理解していると思う。そういう良いこともわかるような情報の提供をしていかなければいけない。ただ数字だけ出すと取り違いとなる。

○委員

ただいけないだけではなく、メディアをこのように与えた、わが家ではこういう使い方をしたらこんなに良くなった等前向きになれる意見、見本になるような広報等をお願いしたい。

○市長

保護者や学校教育関係だけではなく、広報などでも取り上げて空白のないようにやっていけば良いのかもしれない。

○委員

子育て支援に絡んで、教育委員会は、特に市民公開講座で生活リズムに関する講演会を適宜継続してやってきている。その効果は、特に学校関係者が出席した場合、その内容をリアルタイムに学校だよりも、そのポイントをしっかりまとめ、地域回覧でまわってくる。あれは非常に大きな効果だと思う。寝る子は育つ、脳科学、それから愛着形成というあたりで、シリーズ的に実施してきているので、その点を大事にしながらか継続していくということと、せっかく有名な講師が来るので、できるかぎり学校に出向いていただき、例えば中学生に直接話していただくとか、全部の中学校が無理だとしても、今年は糸魚川中学校とか、来年は青海中学校とか、何とかチャンスを作り生徒に聞かせる部分も効果があるのではないかと思う。講師の都合等難しい面もあるかもしれないが、ぜひチャレンジしていただきたい。

○事務局

川島先生など色々な著名な講師を呼び、講演会を実施してきた。ただ、聴講するのは学校の先生や関心のある方であり、本当に保護者が全員その場で、聞いていただければよいが、なかなか聞けない現状があり、どうすればよいか課題と捉えている。来年度の実施時には、保護者が難しければ、全員集まれる学生に訴えかけるのも一つの手段だと検討している。やり方は未定だが、アプローチの方法を模索しながらやっていく。

○市長

聞いてもらいたいのは保護者であるので、なるべく保護者が集まれる時に実施するのが効果的であると思っている。

今、家庭教育の部分に入っていないところがあり、学校教育は当然その最前線であり、地域教育においても公民館事業、地域活動等の行事の中で行っている。家庭教育の部分がなかなかうまくいっていないと感じる。おおよそは皆さんに受け止めてもらっていると思うが、実際その中でうまくいっているのは3分の1、そのほかはあまり子どもたちの中に入っていない

いない気がする。そこを保護者が一番集まる時に良い講演会を合わせてやり、我々の不安な部分を解決できるような講演していけばよい。

○教育長

7ページの学校保健の統計調査では、全国よりも当市の小中学生がまだ視力の低下が認められないが、今出ている電子メディアの関係等を分析しようという考えはあるか。

○事務局

今回、学校保健統計調査ということで、国の動向として視力が1.0未満の割合が非常に多くなった。その部分に関して、当市との比較を行うために資料を配付した。これと、スマートフォン・メディア等の利用に関する調査との分析はしてないので、今後必要に応じて検討していく必要があると思っている。

○市長

調査結果は変わらないかと思っていたが、これだけ差が出てくるというのは何らかの要因があるのではないか。逆に良い要因が更に伸びていく可能性があるので、ここに留めておくことも大事になってくるので、できれば調べてもらいたい。

悪い要因はすぐ分析して、良い要因はそのまま放置すればいいという訳ではなく、それを更に伸ばすことも大事である。

○委員

良い要因は自然が豊かだからではないか。緑が豊かで、風景を見るのが目には非常に大事である。コンクリートジャングルではなく、そういった環境が身の周り、学校の周り、家の周りにすべてある。

○委員

体力を見ているが、新潟県は全国でも高い。当市は更に高いということは素晴らしいことである。視力も体が一番だと思うので、メディアではなくて、体を動かしている良さ、運動等でも活躍している子もいるので、そういうことを紹介しながら、学校だけではなく、親にも市民にもこうやって頑張っている、成績だけではなく、体力もあるし、色々な面で誇らしい、健康が1番であるということも併せて伝えることも大事であると思う。

○市長

8ページのグラフもそうだが、食べ物が美味しいということもある。

○委員

数字的に見ると本質が見えてくる部分がある。

○教育長

3ページの1番下のグラフが気になっており、就寝時刻と健康状態が顕著に表れている。母数がわからないが、23時以降になると半数の子供たちが朝の調子が悪いと回答しているので、この点の働きかけに取り組む必要がある。

○委員

そこがすごく大事なポイントだと思う。陰山先生が言う反復徹底、朝である。朝のエンジンをかけさせるために、先生は生活リズム、睡眠時間たっぷり取ってくださいということとの関連を強調されている。ここに出ている朝ボーっとしている、ご飯を食べなという子供は、陰山メソッドはあまり好きでなく、乗りが悪いと思う。その健康観察と子供との対応の中で、担任はキャッチして、その子供の生活リズムについての部分を把握し、改善のアクションを起こし、保護者との面談実施等、そこまで踏み込んでいかないとこのパターンはなかなか改善できない。

全てが繋がっているということも、もう1回学校にも保護者にも啓発していかないといけない。陰山メソッドだけ浮き立っているのではない。全ての繋がりの中で朝の学習のスタートの時に元気が出る、これで1日が進んでいくという部分を関連させて伝えていくことが大事であると思う。

○市長

令和2年度に陰山メソッドの大会を糸魚川で行う。これはチャンスである。こういう時に併せて周知をして、理解してもらおう。令和2年度の大会関係者は繋がりを十分に理解し、進めていきたい。

○教育長

生活リズムと2本立てで計画したいと思っており、基本は生活リズムからとしていきたい。

○市長

単に学力向上ではなく、生活リズムがあって初めて学力が向上する。基礎があって成り立つという仕組みをやっていきたい。それによって更に上のステップに上がり、全体的にレベルが上がる。せっかくこういうデータがあるので、生かしながらやっていきたい。そして、大会を1つの目標にしながら、工夫しながら実施して欲しい。大会は大会、これはこれではなく、陰山メソッドにターゲットを絞り、それに向かって実施したい。

○委員

陰山先生は朝ごはん食べるのが大事と言っており、引きこもりになっていくことは、昼夜が逆転した生活リズムが1番悪い。これが不登校にも繋がっているので、生活リズムは大切ということを感じる。

○委員

運動関係だが、幼稚園・保育園での取り組みや子どもたちの様子を園の先生から聞いた。外遊びの活動が前より活発になってきたというふうに聞き、私も感じている。ジオサイトの見学に親子で行く機会が年に1回だったが、それをきっかけに土日に親子で出向いている等、プラス効果が表れている。園の子供たちと家族がちょっとずつその動きを通して、外遊び、外に出て五感を刺激しながらふるさとの自然に触れているということである。

それがベースとなり学校での運動につながってくると思う。また、小・中学生になって外で遊んでもらえればよいが、なかなか外で遊ぶ子供が見えず寂しいと思う部分もあるが、底辺・土台の部分で親子がたくさん外で遊ぶように仕組んでいく動きは、嬉しく思う。

○市長

生徒数が減ってくると、1部の子供たちの考え方が当たり前だと思ってしまう部分もある。それを感じたのは、今の学生に流行している制服だが、聖学院中学校の生徒たちがしっかりと身なりで来市した。都会の子供たちに対し、テレビの画面で見る、マスコミが報道する姿を当てはめていたのだが、実際の子供たちを見て、こういう学生たちもいると感じた。少数だが1つの流れが出てしまうと、それがあたかも全てという捉え方をしてしまうこともあるので、数が減れば減るほど注意して情報提供しなければならない。スマートフォンや運動にしても、狭い範囲の世界だけに閉じこもっていかないように注意しなければいけない。運動にしても、外にこれだけの良いフィールドがたくさんあるので、その方向へなるべく向いていくような形に持っていきたい。

○委員

当市の子どもにこのように肥満があったとは思わなかった。学年により差がある傾向は前か

らあったと思うが、直接関係あるか不明ではあるが、外遊びや小さい頃からの生活習慣と何か関連があるような気がする。普通に外で育つ元気になっている子は、簡単に肥満にならない。外に出ない理由や家庭の問題もあると思うが、生活リズムも関係していると思う。学校では当然、それぞれで対応はしているが、簡単ではないので、家庭や地域への呼びかけも必要ではないか。

○委員

関連して、3年生くらいから運動も関係するかもしれないが、食生活の影響もある。帰宅時にカップラーメン等をおやつとして食べていることもあるのではないか。心配な点である。当市は全般的に塩分を取ることが多いので、もしそういうことが理由の一つに挙げられるのなら、小さい頃の記憶が大切なので、注意していくのが必要である。

○事務局

なぜこのような数値が出るのか、詳細な分析はしていない。塩分が多いとの話もあったが、こども課ではキッズキッチンや小学校での食育、料理教室、保護者を含めた栄養バランス教室を行っているので、その場で塩分の取りすぎのデータも示しながら、少しアナウンスをしたいと思います。

○市長

多くのご意見をいただき感謝申し上げます。他になれば、この議題を閉じさせていただく。

4 その他

○事務局

今後の日程について、事務局としては、今年度は今回で終了とさせていただき、新年度早い時期に日程調整し、改めて会議のご案内をさせていただきます。

5 閉会（閉会 10:00）